



■会員100社を達成！

／記念講演会・交流会を開催／

「文化支援、まちの誇りに」

神戸文化マザーポートクラブの会員100社達成を記念した講演会と交流会が3月25日夜、約60人が出席して神戸ポートピアホテルで開かれました。2018年に8社で創設されて以来、8年目で大台に到達。この間、神戸国際フルートコンクールの開催継続や若手アーティストの支援、被災地への訪問活動をはじめ、様々な事業を行う一方、会員相互の交流に努めてきました。

この日は冒頭、同クラブの伊藤紀美子共同代表（田嶋株式会社代表取締役社長）が「文化事業は民間が育てて、行政が後押しするのが理想。」

経済界の力添えで成り立つこの取り組みは、神戸の力になっていくと信じる。100社の集結で皆さんと次のステージに進みたい」と挨拶。

「コロナ禍を乗り越え、さまざまな文化芸術活動への支援に敬意を表します」との久元嘉造神戸市長からの祝電も披露されました。



開会の挨拶をする
伊藤共同代表

記念講演会では、同クラブの家次恒共同代表（シスメックス会長）が登壇。文化支援の理念、神戸文化の可能性について自社の活動を紹介しながら「芸術家を支える仕組みが、活躍できる機会をつくることで新たな価値が生まれる」と述べ、「作家やアーティストの支援にとどまらず、人を育て、まちの個性を育て、All Kobe, For the Kobe」の精神で神戸の未来を創りましょう」と呼びかけました。



講演する家次共同代表

続いて、新しい神戸文化ホールの建設も進む三宮再整備について神戸市の中原信都市局三ノ宮再整備本部長が進捗と未来図を解説。「まちにとってソフトは重要。意識しながらハード整備を進めている」と述べ、会場から質問や要望が相次ぎました。



三宮都心再整備について解説する
神戸市の中原理事



講演後は、神戸女学院大学准教授でピアニストの崎谷明弘氏が演奏を披露。リストの「ラ・カンパネラ」、ドビュッシーの「月の光」などを情感豊かに奏でて聴衆を魅了しました。崎谷氏は地元の若手演奏家を支援する「おとみらいHYOGO」を主宰しており、「マザーポートクラブの存在は、とても心強い」と謝辞を述べました。



会場を魅了した崎谷氏の演奏

交流会では、上島達司共同代表（UCC上島珈琲会長）が「神戸市の素晴らしいハードに、マザーポートらしいソフトを合わせて盛り上げていきましょう」と挨拶。

全員で「乾杯」を唱和して100社達成を祝いました。



上島共同代表の音頭で乾杯！



和やかに立食で歓談



クラブを牽引している幹部ら

最後に同クラブの道満雅彦幹事（オリバーソース相談役）が登壇し、クラブ創設以来事務局を務めた神戸市民文化振興財団の古川厚夫専務理事の退任を紹介し、古川氏は「100社を達成できて感無量です」。道満幹事は「芸術家を支援する集いがあるのは、まちの誇り。100社はゴールではない。200、300と増やし、加盟がステータスになるような団体になっていきたい」と締めくくりました。



退任挨拶をする神戸市民文化振興財団の古川専務理事（当時）



閉会の挨拶をする道満幹事

■「がんばろう！神戸のクラシック」／室内オケ2団体が来年3月に合同演奏会／神戸市室内管の補助金打ち切り問題受け／

神戸文化マザーポートクラブは、「がんばろう！神戸のクラシック」神戸2オケ＆ソリストたち」と題した合同演奏会を来年3月に開くことを決め、7月2日、神戸市内中央区文化センターで記者発表しました。

神戸市の補助金打ち切り問題で存続の危機に立つ神戸市室内管弦楽団と、アンサンブル神戸のプロのオーケストラ2団体、神戸芸術文化会議による合同の舞台で、神戸の音楽文化を担う団体が垣根を越えて連携し、クラシック音楽の魅力を発信していきます。

今回の企画は、アンサンブル神戸の矢野正浩代表が発案。補助金問題で存廃が取りざたされる市室内管の現状を受け、「このままでは神戸の音楽文化の輝きが失われる」と、マザーポートクラブに提案し、他2団体への協力呼び掛けで、合同演奏会が実現しました。

発表の席上、矢野代表は、アンサンブル神戸が阪神・淡路大震災後、仮設住

宅などで100回以上の演奏会を開くなど、補助金に頼らず活動してきた歩みを紹介。「補助金打ち切りイコール解散という論調には違和感がある。民営化して自ら活動を続けていくことを後押ししたい」と語りました。

神戸芸術文化会議の山本裕之常任委員は、これまで地元音楽家と市室内管との交流が十分ではなかったとし、「今、地元の音楽家が何もしなければ、神戸は音楽文化不毛の地と見られてしまう」と危機感を示しました。一方、市室内管の辻雅滋音楽主幹は、補助金の行方にかかわらず、プロの楽団として活動続ける姿勢を強調し、「民間との共演や依頼公演の拡大にも取り組みたい」と語りました。

神戸国際フルートコンクールなどへの支援を続けてきたマザーポートクラブの渡辺真二幹事（早駒運輸社長）は、補助金の是非を判断する立場でないとしつつ、「神戸の文化活動の灯を消すわけにはいかない」と強調。「特定団体の存続が目的ではなく、文化事業を支える考えでの開催」と、趣旨を述べました。

演奏会は、2027年3月27日午後2時、神戸新聞松方ホールで開演。市室内管は鈴木秀美音楽監督の指揮でハイドン

の交響曲第82番「熊」など、アンサンブル神戸はベートーベン作品などを披露。モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」「後宮からの逃走」の序曲を合同演奏します。神戸芸術文化会議からは、ソプラノ歌手の老田裕子氏らソリストが出演します。

会見では、今後の楽団の在り方について質問が相次ぎ、登壇者からは「補助金カットで即解散ではない」との認識が示される一方、市民に必要とされる楽団となるための改革が不可欠との意見が出ました。



合同演奏会について記者会見する（左から）矢野、山本、渡辺、辻の各氏＝神戸市中央区文化センター

マザーポートクラブでは、補助金問題を契機に生まれた今回の連携を一過性のものにせず、「ピンチをチャンスに変えて、神戸の音楽文化に新しい風景をつくりたい」と考えています。

■神戸六甲ミーツ・アート／阿部氏の作品にマザーポートクラブ賞

神戸・六甲山上で開催中の現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート2026 beyond」（8月29日～11月29日、主催・六甲山観光、阪神電気鉄道）の公募作品の授賞式があり、神戸らしさと社会性をまとった阿部文香氏の作品「猪（イノシシ）は嗅（か）ぎ、人は山を語る。そして、山は私たちを見る。」に、神戸文化マザーポートクラブ賞が贈られました。

「猪はー」は、駆除されたイノシシが素材で、眼から取り出した水晶体をレンズにして六甲山の自然を撮影し、それを自らなめた革などに印刷した作品。アーバンベア問題に関心が高まる中、人間と野生動物との関係にアートの観点から果敢に切り込んだ点が評価されました。

イノシシが見ていた景色とは、「見える」とは何かーなど、根源的な問いが作品に内在しています。阿部氏の益々の活躍をお祈りしています。

神戸六甲ミーツ・アートは、2010年からこれまでに約650組のアーティストが参加。17回目となる今年は国内外の作家約60組から多彩な彫刻や映像などが出品されています。会員の皆さんも六甲山を散策しながら、ぜひ感性の出会いを楽しんでください。



阿部氏の作品



伊藤共同代表から賞を贈られる阿部氏（右）

■会員交流 船上パーティー開催のお知らせ

神戸文化マザーポートクラブでは、会員の皆さまの交流と親睦を深めていただく機会として、毎年恒例の交流会を開催しています。今年は、神戸港を舞台にした特別企画として、神戸リゾートクルーズ「Boh boh KOBE」を貸し切った船上パーティーを開催します。

当日は、こだわりのお料理を味わいながら、クラシックとジャズの生演奏による華やかなステージをお楽しみいただけます。美しい神戸の夜景と海の景色を眺めながら、会員同士の新たな出会いや交流を深めるひとときをお過ごしください。

開催概要

日時：令和8年10月31日（土）17時出航
会場：神戸リゾートクルーズ「Boh boh KOBE」

KOBE

参加費：5,000円

定員：80名（先着順）

会員の皆さまにとって、芸術文化を通じた交流の輪を広げる絶好の機会です。

ぜひお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

お申込みは
こちらから

